

千年の森便り No.232

2023.2.25

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

2月19日(日) 天候 曇り・強風

活動日の前日、君津市豊英の天気は曇りで気温は17℃、風速10mの南風と予想されていました。当日は朝から予報どおりの強風で、ナラ枯れの枯死木が多い豊英島で活動ができるか心配なところもありましたが、頭上に注意しながら無理をせずできる範囲での活動に留め、事故なく2月の活動を終えることができました。

活動内容としては、年間計画の相対照度調査は実施せず、前回の活動で途中になっていたヒメコマツ植栽地の植生保護柵の補修、この時期の植物観察、センサーカメラのデータ回収、大原さんによるチルホールを使った重量物移動のデモの見学などを行い、いつもより早めの午後1時半には島を後にして帰路につきました。



強風の中豊英島へ

あ、あれはなんだ？と空を見上げるポーズで集合写真

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、大原、苅米、坂本、清水、村野、福島の会員9名でした。(福島)

○2月の植物の様子

つり橋から先の島はナラ枯れによる影響が色濃く出ていました。この時期は落葉期のため普段から明るい森となっていたがさらに多くの木が倒木となり、まぶしいくらいに明るなくなっていました。進入路、けもの道等には太めの枝が落下していました。

枯れ木による落下物に十分に注意を払い、島の北側斜面に自生するスハマソウ、コセリバオウレンの観察に向かいました。スハマソウの花数は一時に比べ多いほうですが花は幾分小ぶりのようでした。コセリバオウレンは自生地を間違えていて、禁断の岬まで回ったのちに福島さんの案内で再度清水さんと3人で行きました。残念ながら花の咲くような状態ではありませんでした。ここにはミヤマウズラが落ち葉に埋もれていました。この花もここ数年見ていません。日当たりが良くなるよう落ち葉を取り除きました。

明るくなった島中央部の台地には、カンアオイ、コショウノキ、オニシバリ、アセビが花をつけていました。コショウノキはシカの食害から護る金網が掛けられていますが上部からはみ出た部分が食害に遭い、枯れて根元部分にしか葉がないものがありました。保護柵を高くする必要がありそうです。アセビは緑交じり赤褐色の蕾を枝につけた木と、純白のつぼ型の花を満開にした木があり花の変化を楽しむことができました。



スハマソウ



ヒメフタバラン



コセリバオウレン



ミヤマウズラ



カンアオイ



コショウノキ



オニシバリ



満開のアセビ



アセビの蕾

禁断の岬のがけ下にはヒメフタバラン、キッコウハグマがあり、崖にはヒカゲツツジがわずかな葉をつけていました。特別の変化は確認できません。今年も花を咲かせてくれそうです。

千年広場の脇にはコナラの伐採木が1m未満に切断され積まれていました。かたいキノコのなかまがこのコナラのピース毎に異なったキノコを生やしていました。模様がとても魅力的です。混じりあって生えることはないのでしょうか。菌糸は排他的で独占的なののでしょうか。不思議な感じがします。(秋元)



かたいキノコ 1



かたいキノコ 2



かたいキノコ 3

○オニシバリとコショウノキ

花の少ない時期にも拘わらず、林床には沈丁花の仲間の2種が咲いていました。両種とも県内ではあまり見かけない種類です。シカが食べるのに適した高さに葉を広げているのに食害が無いのは不思議と思って調べたら、やはり有毒植物でした。以下は検索した情報の抜粋です。(坂本)

オニシバリ

鬼縛り、学名：Daphne pseudomezereum

ジンチョウゲ科 ジンチョウゲ属の小低木。樹皮が強靱で、枝を折ってもちぎれないことから、この木の樹皮で鬼を縛っても切れないだろうという意味で、オニシバリ(鬼縛り)。また、夏に一時落葉することから、ナツボウズ(夏坊主)ともいう。

全株が有毒で、クマリン誘導体を含み、腹痛、血便、口内炎を起こすことがある。果実にも有毒成分を含む。



オニシバリ

コショウノキ

胡椒の木、学名：Daphne kiusiana ジンチョウゲ科 ジンチョウゲ属。

和名は果実がコショウのように非常に辛いことに由来するが、香辛料にする胡椒とは全く別の植物で、本種は有毒。属名のDaphneはギリシャ神話でアポロンに求愛された女神の名で、種小名のkiusianaは九州産の意。沈丁花に似た芳香あり。



コショウノキ

○見事なアセビ

先月の活動日に沢山の蕾を付けていたアセビは満開となり、この木だけは淡雪が降り積もったように見えました。幹の太さはビール瓶ほど、樹高は2mを超えて島内では最大のアセビと思います。他の木は蕾のままか、ようやく咲き出したばかりでしたから同じアセビでも早咲きの性質を持ちあわせた木のようにです。挿し木や接ぎ木で増やした園芸植物とは違い、別々の種子から育った自生の木ですから遺伝子が異なり、花期だけでなく色々な変異、多様性があるのは当然です。

(坂本)



見事なアセビ

○センサーカメラの動物

11月の活動日と12月の活動日が近く設置期間は15日間でした。記録数は少なくニホンジカの記録が主で、特に報告すべき記録がありませんでした。12月号の未報告分を含めて、1月の活動日の回収した記録と一緒に報告いたします。(秋元)

設置期間：11月20日から1月15日まで

※日数は確認した日数です。

同じ日に複数回記録されても1日としています。

CAM1：吊橋着岸点付近

タヌキ 1+3=4日 夜間

キョン 2日 夜間

不明 1日 夜間



キョン



タヌキ

CAM2：ホテイ岬への分岐点付近

ニホンジカ 5+1=6日 昼間・夜間 キョン 2日 夜間

ハクビシン 1日 夜間 不明 1日 夜間

CAM3：ホテイ岬先端付近

ニホンジカ 8+3=11日 昼間・夜間

○植生保護柵の補修

前回の活動に続き、植生保護柵の補修を行いました。今回補修したのは、ヒメコマツの植栽地を囲む植生保護柵です。柵内には、県が遺伝子保存のために育てたヒメコマツが植栽されており、夏になるとツチアケビも出てくることから、これらの植生を保護することを目的に柵を設置してあります。設置から年数が経過し、柵のネットが下がってしまったり、支柱が曲がったりしたものがあつたので、それらを補修、交換しました。同時に、植生保護柵内で大きくなってきた低木についても刈り払いを行いました。強風でコナラの梢が大きく揺れる中でしたが、柵内は大きな木がないため比較的安全に作業することができました。（福島）

○チルホールを使った重量物移動

トルコ地震で多くのビルが倒壊しました。阪神淡路大震災をボランティアで経験した私は、とても心が痛みます。トルコは火が出なかったようで幸いです。倒壊後、神戸市長田区では多くの火事が出て生きながら焼死してゆく悲惨な状況を聞きました。そこで都市型の地震災害の圧死、焼死対策を考案しました。

震度7の地震は逃げられません。何もできません。耐震補強もあてにはできません。強度を倍にすると、地震から受ける力は4倍になるのです。まず第一撃を丸太をくり抜いた防災カプセルでかわします。その後、火が来る前に助け出すしか方法がないのです。今回の千年の森のフィールドは被災地に酷似しています。ナラ枯れで多くの瓦礫が散乱し、重機は入れず、レスキューも来ません。近くの被災者が助けるしかないのです。

瓦礫を取り除くのに山仕事の技術が役立ちます。チルホールとロープがあれば、重い瓦礫を動かす事ができます。ヨイトマケ、テコの原理、クレーンの原理を利用する方法がありますが、今回は梁などがいないため、クレーンの原理を利用しました。チルホールで引くだけでは、障害物に当たったり、地面との摩擦が大きいため動かせません。そのためチルホールと障害物を結ぶロープの中間に支柱になる丸太組を入れ、ロープを支柱に固定します。丸太組を少し前傾させ、支柱をチルホールで引きます。障害物を斜め上に引き上げながら引くのです。地面との摩擦が解放され固定された支柱がクレーンの役目をして障害物をずらしていきます。これを繰り返して被災者を救出するのです。防災カプセルで保護されていない場合は、挫滅症候群を注意しながら状況、被災者の身元などの記録をして病院に搬送します。心肺停止の場合は CPR、ケガは止血、骨折は添え木などの応急処置が必要です。

トルコでは10日以上埋もれて救助された人もいます。あきらめず携帯の位置情報を駆使して救助してください。山仕事の技術はそのままレスキューになります。災害時に活躍すると奥さんが惚れ直すかもしれません。森の新たな使い方かもしれません。（大原）



チルホールを使ってクレーンの原理で重量物を動かす

〇お知らせ

〇次回活動日は3月19日（日）です。

2022年度最後の定例活動日です。年間計画では、ニホンジカ生息状況調査、ヒメコマツ測定補助、危険木伐採が予定されています。ヒメコマツについては、25日に豊英島で県の観察会が予定されていることから、変更になるかもしれません。また、こんな活動を行いたいという希望がありましたらメーリングリストなどでお知らせください。

島内にはナラ枯れで枯死したコナラが多数あるため、島に入る際は安全対策としてヘルメットの着用をお願いします。